

TETSUDO KOSAIKAI FOUNDATION

事業案内

 公益財団法人 鉄道弘済会

CONTENTS

02

トップメッセージ

「一人でも多くの方が幸せになる福祉を目指して」

03

公益事業等

- ・ 義肢装具サポートセンター 03
- ・ 総合福祉センター「弘済学園」 04
- ・ 児童養護施設 札幌南藻園 05
- ・ 保育所・認定こども園 06
- ・ 福祉資料室 07
- ・ 社会福祉研究 07
- ・ 朗読録音奉仕者感謝行事 07
- ・ 社会福祉法人 東京弘済園 08
- ・ 他団体への運営協力 08
- ・ 奨学金事業 08

09

行事・イベント

- ・ 社会福祉セミナー 09
- ・ こうさい療育セミナー 09
- ・ わたしたちが創る展 09
- ・ 施設公開 09

10

収益事業

- ・ 不動産賃貸・開発事業 10

11

あゆみ

13

プロフィール

「一人でも多くの方が幸せになる福祉を目指して」

公益財団法人 鉄道弘済会
会長 森本 雄司



本法人は、公益事業の運営を本旨とする財団法人として、1932年2月に設立されました。設立の趣旨は、国有鉄道の業務に従事し、不慮の事故により殉職された職員の遺族や公傷により退職された職員などの救済と援助を目的としたものでした。第二次大戦後、時代の要請により、一般の方がたをも対象とする一般福祉事業へと公益事業の範囲を拡大し、1987年には国鉄の分割・民営化に伴うキヨスク事業の分離により、自ら保有する資産の運用によって福祉事業を維持、運営する自立型の財団法人として、その途を進むこととなり、今日にいたっております。

本法人の行っている公益事業には、身体障害者福祉、児童福祉、知的障害児・者福祉、高齢者福祉などがあります。民間におけるわが国唯一の切断障害者に対する、医学的管理をもとに義肢製作から機能回復訓練まで一貫して行う総合リハビリテーション施設、知的障害・自閉症児者施設、認可保育所・認定こども園や児童養護施設など、各種福祉施設の運営を全国各地で展開しております。また、福祉に関する理論と実践をつなぐ専門誌の発行及び各種セミナーの開催や視覚障害者用録音図書の作成奉仕者に対する顕彰事業等も行っております。

民間の公益事業団体として、その時代の要請に応え、先駆的な役割を果たすとともに、ニーズの変化にも対応し、事業内容の充実に努めてまいりました。そして、これらの公益事業に要する費用の不足分は、不動産を有効活用した賃貸事業などの収益事業の益金等をもって充当しております。

世の中の動き、諸情勢は、広い分野にわたり、めまぐるしく変貌しております。本法人は、変化する利用者のニーズや社会の動きを的確にとらえ、日本でいち早く福祉社会を実現しようとした先人の高い志を受け継ぎ、今後もより充実した福祉事業運営ができるよう、なお一層経営基盤の充実に努めます。

2013年10月に公益財団法人へ移行したことを契機に、新たな決意のもと、社会から真に必要とされる公益事業を提供することにより、広く社会に貢献していけるよう全力を傾注してまいります。

■ 公益事業等 ～一人でも多くの方が幸せになる福祉を目指して～

義肢装具サポートセンター（障害者に係る福祉支援事業）

東京都荒川区に設けた義肢装具サポートセンターは、義肢・装具を必要としている切断者・麻痺患者等に対し、医療関係職種からなるチーム医療のもと、義肢・装具の処方から製作・修理、義肢装着訓練、機能回復訓練、更生相談に至るまでの過程を、入所設備を備えた施設で一貫してサービスを提供する、民間では国内唯一の総合的リハビリテーション施設として運営しています。医師、看護師、理学療法士、義肢装具士、ソーシャルワーカー等の専門家が連携をとりながら、利用者に総合的、多面的にかかわることにより、切断者の早期社会復帰を支援しています。

当センターでは、切断者・麻痺患者等の生活の質の向上を図るため、義肢・装具の研究開発にも積極的に取り組み、切断者・麻痺患者等の社会参加に貢献しています。また、当センターの義肢装具士を障害者スポーツ大会やパラリンピックにメカニックとして派遣し、切断障害者のアスリートを支援するとともに、障害者スポーツの裾野を広げることを目的に、初心者向け走行体験会「THE FIRST STEP」の開催やスポーツ用義足の貸出等を行っています。

加えて、幼稚園・保育所の年長児から小・中学生を対象に「出張授業」を実施しています。専門知識を有する職員を講師として派遣し、体験を通して義肢・装具のしくみを学ぶだけでなく、障害のある方と接することで、障害理解を深め、社会福祉を考えるきっかけづくりに貢献しています。



施設外観



製作工場



装着・歩行訓練



「THE FIRST STEP」の様子

所在地 東京都荒川区南千住4-3-3 電話 03-5615-3313

ホームページアドレス <http://www.kousaikai.or.jp/support/>

総合福祉センター「弘済学園」(障害者に係る福祉支援事業)

神奈川県秦野市に設けた総合福祉センター「弘済学園」は、知的障害・自閉症児者を対象に、障害児者が安心できる生活環境を整え、情緒の安定を引き出し、生きていく力を養い、それぞれの自立に向けた療育支援を行うことを大きな特色としています。

当園では、福祉型障害児入所施設、障害者の地域生活を支援するグループホーム、障害者の日中活動を支援する生活介護事業及び就労継続支援B型事業、障害児の早期療育のための児童発達支援センター、学校年齢の障害児の放課後を支援する放課後等デイサービス、在宅の障害児者のニーズによる短期入所事業及び日中一時事業等を運営しています。



施設外観



就労支援「園芸作業」



体育「トランポリン」



生活支援「歯磨き」



日中活動支援「歩行」

所在地 神奈川県秦野市北矢名1195-3 電話 0463-77-3222

ホームページアドレス <http://www.kousaikai.or.jp/school/>

児童養護施設 札幌南藻園

(児童又は青少年の健全な育成に係る福祉支援事業)

北海道札幌市に設けた札幌南藻園は、様々な事情により家庭での生活が困難な児童を受け入れ養育するとともに、児童の早期家庭復帰を支援する児童養護施設です。当園では、児童の健やかな育ちに欠かせない愛着形成の機会を確保し、日常生活を通して、情緒の安定と基本的生活習慣の確立を図り、心身ともに健全な社会人となるよう努めています。また、分園型小規模グループケア及び地域小規模児童養護施設では、各施設児童6名が、より家庭的な環境の中で養育され、児童一人ひとりの自立を支援しています。

更に、保護者の病気、仕事、出産、育児疲れ等の理由により、一時的に養育困難となった児童を短期間養育する「子育て支援短期利用事業（ショートステイ）」も行っています。



施設外観



南藻園祭りの様子



地域小規模児童養護施設の様子



地域小規模児童養護施設「あじさい・すずらん」

所在地 北海道札幌市中央区界川1-6-14 電話 011-561-0668

ホームページアドレス <http://www.kousaikai.or.jp/nansouen/>

保育所・認定こども園 (児童又は青少年の健全な育成に係る福祉支援事業)

「一人ひとりの子どもを大切に、保護者や地域社会から信頼され、選ばれる保育所を目指す」という教育・保育理念のもと、各地域の保育ニーズに合わせて、全国 24 箇所の認可保育所及び認定こども園を運営しています。

各保育所・認定こども園においては、子どもたちの「遊びを通しての学び」を大切にするとともに「延長保育」「障害児保育」「病児・病後児保育」など利用者のニーズに沿った教育・保育を提供しています。

また、「地域子育て支援拠点事業」「一時預かり事業」「育児相談」などにより、地域の子育て家庭への支援を行うほか、「放課後児童クラブ事業」により、就学後も地域において子どもが安心して過ごせる場を提供しています。更に、第三者評価の定期的な受審、各保育所・認定こども園の参加者同士が協働する学びの場である「往還型研修」を実施するとともに、「こうさい保育セミナー」「公開保育」を開催するなど保育の質の向上のための取り組みを行っています。



地域子育て支援センター (旭川認定こども園)



こうさい保育セミナー



元気な子どもたち (和歌山認定こども園)



病後児保育 (与野本町駅前保育所)

ホームページアドレス <http://www.kousaikai.or.jp/sukoyaka/>

福祉資料室（社会福祉に関する知識・技術の向上に係る福祉支援事業）

福祉資料室は、社会福祉専門図書館として、1965年に開設しました。社会福祉分野の図書・資料・雑誌等の文献を1万冊以上所蔵（外部書庫含む）し、研究者、社会福祉事業の従事者、学生、一般の方々に無料で閲覧・貸出を行っています。ホームページでも蔵書検索が可能です。

所在地 東京都文京区小石川1-1-1 文京ガーデン ゲートタワー 19階 電話 03-6261-2790
蔵書検索用ホームページアドレス <http://www.lib-finder.net/kosaikai/>

社会福祉研究（社会福祉に関する知識・技術の向上に係る福祉支援事業）

社会福祉の理論と実践をつなぐことを目的に、専門研究誌『社会福祉研究』を年3回発行しています。



社会福祉研究

朗読録音奉仕者感謝行事（障害者に係る福祉支援事業）

視覚障害者等の豊かな生活に欠かせない録音図書は、ボランティアの方々の多くの時間と地道な努力によって制作されています。これらのボランティアの方々に謝意を表するとともに、録音図書の質的向上とボランティア活動の啓発を目的として、社会福祉法人日本盲人福祉委員会との共催により「朗読録音奉仕者感謝行事」を1971年から毎年開催しています。



朗読録音奉仕者感謝の集い

社会福祉法人 東京弘済園 (高齢者に係る福祉支援事業)

1955年12月、本法人は老人福祉事業を行うため、東京都三鷹市に社会福祉法人東京弘済園を設立しました。東京弘済園では、特別養護老人ホーム「弘済園」、養護老人ホーム「弘寿園」、ケアハウス「弘陽園」の3つの入所施設と、デイサービスセンター「弘済ケアセンター」「三鷹市高齢者センターけやき苑」の2つの通所施設及び2つの地域包括支援センターを運営しています。また、保育所を併設し、高齢者と児童の複合施設として、世代間交流を行うなどの特色を生かした活動を積極的に行っています。

本法人では、東京弘済園への支援を通して高齢者の生活と福祉の充実を図っています。



特別養護老人ホーム「弘済園」



活動風景



園児とのふれあい

所在地 東京都三鷹市下連雀5-2-5 電話 0422-43-3319

ホームページアドレス <https://www.kosaien.or.jp>

他団体への運営協力 (障害者に係る福祉支援事業)

社会福祉法人鉄道身障者福祉協会、社会福祉法人日本視覚障害者団体連合、社会福祉法人日本点字図書館等の社会福祉団体への助成を行っています。

奨学金事業

「福祉人材養成のための奨学金」及び「児童養護施設の卒園者等の自立支援のための奨学金」からなる奨学金事業を実施しています。

■ 行事・イベント ～各福祉事業で培った経験・知識・技能の提供のために～

社会福祉セミナー

社会福祉の理論と実践をつなぐことを目的として、「社会福祉セミナー」を開催しています。社会福祉の分野を幅広く捉えたテーマを選定し、各分野の研究者・実践者による講演やパネルディスカッション等を実施しています。専門性の高い内容のセミナーとして、全国の地方公共団体職員、社会福祉研究者、社会福祉事業従事者、教育機関など多方面の方々のご参加をいただいています。



社会福祉セミナー

こうさい療育セミナー

(総合福祉センター「弘済学園」)

「こうさい療育セミナー」は、弘済学園での療育・支援の実践を基にした研究報告を行い、知的障害・自閉症児者への療育・支援のあり方について知見を分かち合い、情報交換を行うことにより、内外関係職員等の研鑽と専門性向上を図ることを目的として1988年より開催しています。また実際の療育・支援内容を公開しています。



こうさい療育セミナー

わたしたちが創る展

(総合福祉センター「弘済学園」)

弘済学園の利用者が取り組む作業学習を通して自己の可能性への自信を得て、そこから成長していくことを目的に、作業学習等から生まれた織物、木彫、鉢花、タイルモザイク、ビーズ等の作品を展示するものです。「わたしたち」が作った作品に大勢の方に見て触れて関心を持っていただきたい、そして「わたしたち」の未来を共に創り・拓くという意味を込めて開催しています。併せて、会場にて療育相談も実施しています。



弘済学園 「わたしたちが創る展」(東京駅構内)

施設公開

(義肢装具サポートセンター)

義肢装具サポートセンターでは、義肢・装具を身近に感じてもらい、切断者への理解を深めていただくため、「施設公開」を毎年開催しています。

製作室やリハビリ室・展示室等の施設内見学、義肢・装具・リハビリ並びにスポーツ各種相談会、日常用・スポーツ用義足の装着体験や筋電義手体験、義足アスリートによる走行デモンストレーション等を行い、広く一般に活動を紹介しています。



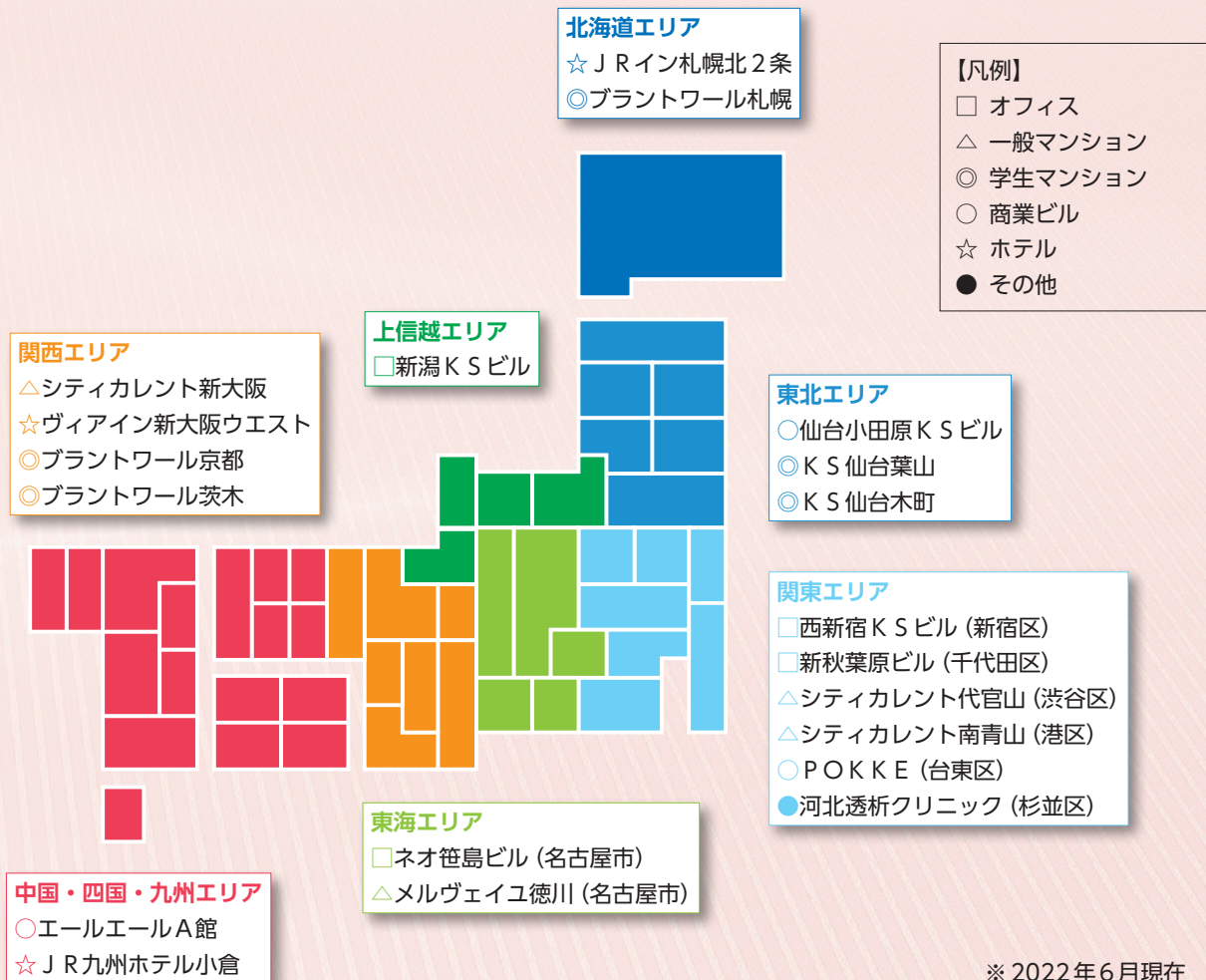
義足アスリートと
南千住駅前保育所の園児のかけっこ

■ 収益事業 ～公益事業の財源に充てるために～

保有土地・建物を活用した不動産賃貸・開発事業により得た賃料収入で、公益事業を費用面で支えています。

不動産賃貸・開発事業 首都圏をはじめ、全国で賃貸事業を展開しています。

～主な保有物件～



西新宿
K S ビル



シティカレント
代官山



POKKE











J R イン
札幌北2条



— あゆみ —

1931年～1933年 満州事変
 1938年 社会事業法施行
 1939年～1945年 第2次世界大戦
 1946年 生活保護法施行
 1948年 児童福祉法施行
 1949年 日本国有鉄道発足
 1950年 身体障害者福祉法施行

1932 昭和7年	1936 昭和11年	1943 昭和18年	1944 昭和19年	1949 昭和24年	1950 昭和25年	1951 昭和26年	1952 昭和27年
2 財団法人鉄道弘済会設立 ①	4 本店事業を開始(東京駅・上野駅) ②	8 初の特産場を名古屋市に開設 ③	4 学生寮を中野区に開設 ④	8 本部を下谷区上野元黒門町に移転 ④	11 東京義肢製作所を台東区御徒町に設置 ⑤	5 福祉事業の対象を一般に拡大 ⑤	11 初の旅行者援護相談所を大阪駅に開設 ⑥
							
本部設置時の鉄道省庁舎	東京支部(万世橋駅)	名古屋授産場	上野の本部	東京義肢製作所	昭和20年頃の売店	大阪駅旅行者援護相談所	和歌山保育所
1983年 老人保健法施行	1987年 国鉄分割民営化	1994年 第1回「鉄道の日」	1995年 阪神・淡路大震災	1997年 介護保険法制定	2000年 介護保険法施行 社会福祉法制定	2006年 障害者自立支援法施行	2011年 東日本大震災

1982 昭和57年	1987 昭和62年	1994 平成6年	1995 平成7年	1998 平成10年	1999 平成11年	2004 平成16年	2006 平成18年	2008 平成20年	2011 平成23年	2012 平成24年
2 厚生大臣表彰	7 キヨスク事業を6分社化	10 運輸大臣表彰	3 学生寮を練馬区に開設 ⑬	3 賃貸住宅事業を開始(KS千駄木)	4 弘済学園に自閉症児施設を開設 ⑭	3 初の駅型保育所を戸田駅前開設 ⑮	3 キヨスク事業を完全分離	5 東京身体障害者福祉センターを荒川区南千住に移転(義肢装具サポートセンターに改称) ⑯	2 弘済事業(株)の清算終了(関係関連会社整理完了)	12 義肢装具サポートセンターに天皇皇后両陛下による行幸啓を賜る
										
		富士見台学生寮	弘済学園第二児童寮		戸田駅前保育所		義肢装具サポートセンター			

1953年
NHKテレビ本放送

1960年
精神薄弱者福祉法施行

1963年
老人福祉法施行

1964年
東海道新幹線開業
第18回夏季オリンピック・
パラリンピック東京大会
母子福祉法施行

1969年
米国の人工衛星
有人月面着陸

1953 昭和28年 1955 昭和30年 1957 昭和32年 1963 昭和38年 1965 昭和40年 1969 昭和44年 1972 昭和47年 1981 昭和56年

2 児童養護施設「札幌南藻園」を札幌市に開設⑧
6 「日向弘済学園」を千葉県山武郡日向村に開設⑨



札幌南藻園

12 社会福祉法人「東京弘済園」を設立

3 第1回「点訳奉仕者感謝の集い」を開催⑩



日向弘済学園



第1回「点訳奉仕者感謝の集い」

2013年
障害者総合支援法施行

2015年
子ども・子育て支援
新制度開始

2017年
JR発足30周年

2018年
社会福祉法改正

2019年
幼児教育・保育の
無償化開始

2020年
新型コロナウイルス
感染症流行

2021年
第32回夏季オリンピック・
パラリンピック東京大会

2013 平成25年 2014 平成26年 2015 平成27年 2016 平成28年 2017 平成29年 2018 平成30年 2019 平成31年 2020 令和2年 2021 令和3年 2022 令和4年

10 公益財団法人へ移行
6 「シティカレント南青山」が竣工⑬



シティカレント南青山

9 福祉相談室を廃止

4 弘済学園地域生活支援センター「わくわく」児童発達支援センター「すきっぷ」を開設



札幌南藻園分園型小規模グループケア「ひまわり」

4 認定こども園へ移行開始

4 4 台東区上野に商業ビル「POKKE」が竣工⑭
4 札幌南藻園分園型小規模グループケア「ひまわり」を開設⑮
11 さいたま市に上木崎保育所を開設



POKKE

4 弘済学園にデイケアセンター（多機能型事業所）を開設⑯

10 新聞雑誌等の取次事業を廃止
3 順次閉所を進めてきた福祉所をすべて廃止



弘済学園デイケアセンター

4 札幌南藻園地域小規模児童養護施設「たんぽぽ」を開設

4 富山認定こども園に
放課後児童クラブ「とやまキッズ」を開設⑰



富山認定こども園
放課後児童クラブ
「とやまキッズ」

4 「あじさい」「すずらん」を開設

7 本拠を文京区小石川へ移転

2 創立90周年



総合福祉センター「弘済学園」

プロフィール

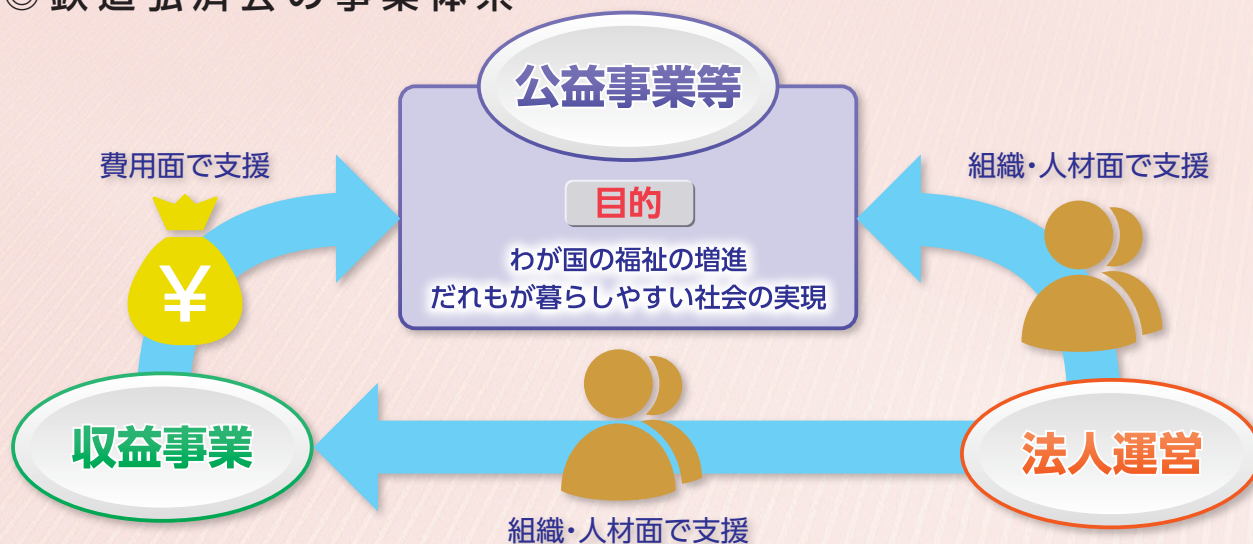
◎ 設立

鉄道弘済会は、1932年2月25日、国有鉄道の職域福祉団体として、公傷退職者、永年勤続した退職者並びにその遺族及び殉職者の遺族を救済・援護する目的を持って、片岡調郎、堀木鎌三、高橋定一各氏らの尽力により、当時の鉄道省が5,000円を出捐し、設立者名義を床次竹二郎（当時の鉄道大臣）として設立されました。

◎ 目的

本法人は、障害者、児童又は青少年、高齢者及びそれらの家族など支援を要する者の諸問題の解決と改善に向けて必要と認める支援を行うとともに、(中略) わが国の福祉の増進並びにだれもが暮らしやすい社会の実現に寄与することを目的とする。(定款第3条より一部抜粋)

◎ 鉄道弘済会の事業体系



基本理念・行動指針

基本理念

鉄道弘済会は、1932年（昭和7年）鉄道に従事し、殉職した職員の遺族や身体に障害を負った職員を救済・援護する目的で福祉団体として設立して以来、長年にわたり社会の福祉ニーズに幅広く応える事業を展開してきました。

私たちは、2013年（平成25年）10月公益財団法人として新たにスタートしましたが、設立当時の志を変えることなく、これまで培ってきた経験、知識、技能を高めつつ、更に専門的、先駆的な取り組みに努め、持続的に福祉サービスを提供するとともに、これを収益事業で支え、だれもが暮らしやすい社会の実現に貢献して参ります。

行動指針

（信頼される福祉サービスの提供）

- 1 私たちは、利用者一人ひとりの目線に立ち、まごころ込めた福祉サービスを提供するため、常に専門知識の習得に努め、利用者や地域の方々から信頼される「福祉の鉄道弘済会」を目指します。

（公益目的事業を継続するための自立型運営）

- 2 私たちは、福祉サービスを提供するために、自ら保有する資産の効果的な活用とコストマネジメントを実践しつつ、安定した公益目的事業を遂行し、自立型運営を継続します。

（社会的責任の遂行）

- 3 私たちは、法令遵守の精神に則り、誠実かつ公正に行動し、地球環境の保護に努め、地域社会との共生に取り組みます。

～全国に広がる福祉のネットワーク～

○法人概況

- 設立** 1932年2月25日 財団法人鉄道弘済会設立
※2013年10月1日 公益財団法人へ移行
- 基本財産** 235億円
- 従業員数** 1,164名(2022年6月1日現在)



○本部・地方機関の所在地

本 部	東京都文京区小石川1-1-1 文京ガーデン ゲートタワー19階	電話 03-6261-3298
北海道支部	北海道札幌市中央区南一条西1-2 松崎ビル	電話 011-271-3109
東北支部	宮城県仙台市若林区成田町75-1	電話 022-291-5175
東海支部	愛知県名古屋市中村区名駅3-22-8 (東海キヨスク株式会社内)	電話 03-6261-3298
西日本支部	大阪府大阪市北区梅田1-1-3-600 大阪駅前第3ビル	電話 06-6343-2771
四国支部	香川県高松市西内町4-6 神原ビル	電話 087-851-0436
九州支部	福岡県北九州市小倉北区浅野1-1-1 アミュプラザ	電話 093-541-3529

